# 文京区アカデミー推進計画策定協議会
# 第１回観光分科会

日時：平成２２年４月２３日

午後１８：３０～２０：３０

場所：文京シビックセンター２１階　２１０１会議室

文京区アカデミー推進部アカデミー推進課

# 文京区アカデミー推進計画策定協議会 第１回観光分科会議録

（敬称略）

「出席委員」

| | |
|---|---|
| 座　長 | 野口 洋平 |
| 委　員 | 上田 武司 |
| 委　員 | 中井 宏好 |
| 委　員 | 白井 圭子 |
| 委　員 | 市川 正明 |
| 委　員 | 山本 重子 |
| 委　員 | 小野 光幸 |

「事務局」

| | |
|---|---|
| アカデミー推進部観光・国際担当課 | 小野 光幸 |
| アカデミー推進部アカデミー推進課 | 萩原 靖恵 |
| アカデミー推進部アカデミー推進課 | 佐藤 祐司 |
| 株式会社富士通総研 | 高橋 誠司 |
| 株式会社富士通総研 | 近藤 田津 |
| 株式会社富士通総研 | 瀬戸 香織 |

**○野口座長：**ご案内あったみたいに全員そろっているわけではないようなのですが、時間も限られておりますので始めさせていただきたいと思います。第１回の文京区アカデミー推進計画策定協議会の、ここは観光の分科会というふうになります。皆さんお忙しい中、またお疲れのところありがとうございます。きょうは司会ということで、私野口がやらせていただきます。よろしくお願いします。

それでは遅れている方もいるということですので、事務局のほうから出欠の確認をお願いしたいと思います。

**○事務局：**観光担当の萩原でございます。よろしくお願いいたします。座らせて説明させていただきます。本日の出欠につきましては、山本委員からご連絡がございます。奥田委員はご連絡がございませんので、後ほど遅れてお越しいただけると思います。

新年度になりまして、異動等によりまして委員の変更がございましたので、今回分科会委員名簿をお配りしております。座席表をおめくりいただきまして２枚目でございますけれども、４月に区の人事異動がございまして、生涯学習分科会および文化芸術分科会の８、行政、アカデミー推進課長が毛利から八木に、そしてスポーツ振興分科会の８、行政、スポーツ振興課長太田から古矢に変更しております。本日は徳田アカデミー推進部長、八木アカデミー推進課長、観光担当池田が本分科会に参加しております。

また、新たな委員としまして、観光分科会の３、商工団体の東京商工会議所文京支部からの団体推薦で、異動により新保様から中井宏好様に変更がございました。ここで委員の委嘱を行いたいと思います。

**○徳田部長：**委嘱状、中井宏好様、文京区アカデミー推進計画策定協議会委員を委嘱します。平成 22 年４月１日、文京アカデミー推進本部長文京区長成澤廣修。どうぞよろしくお願いいたします。

**○野口座長：**中井委員の委嘱も終わりましたので、ぜひ中井委員、よろしくお願いいたします。では、中井委員は新たに加わっていただきまして、本日が分科会１回目ということですので、簡単に自己紹介というふうにしたいと思います。以前、全体会議でもお顔合わせを個別にさせていただきましたけども、ここでお名前とご所属、まずはそれだけで自己紹介というかたちでお願いいたしたい。

**○上田委員：**上田武司と申します。文京区商店街連合会の副会長をやっておりまして、そちらのほうから推薦されまして、観光というのは商店街としては一番大事な部分でございまして、商店街はいかに人を集めてお客さまに接するかというのが基本の考え方ですから、観光事業というのはかなり重視しております。

今までもいろいろな観光事業、リーフレットを出したり、おととし、うちの商店街連合会のほうで「めぐるめ」という情報誌を出して、いろいろとやっておりまして、今回も皆さん方と一緒に何か新しい事業とか、新しい考え方、新しい切り口、そんなものを教えていただければといいかなと考えて参加しております。どうぞよろしくお願いいたします。

**○中井委員：**今回から、分科会のほうから参加になりますが、私は東京商工会議所文京支部事務局長の中井と申します。よろしくお願いします。

文京のほうは４月からこちらのほう配属になりまして、まだ右も左も分からない状況なのですが、観光分科会ということで前新保事務局長がこちらのほうの分科会所属ということで、皆さまと文京の観光の在り方、あるいは東京、あるいは日本、あるいは国際的な位置付けの中で観光はどうあるべきなのかというところも踏まえまして、より良い会議になるよう進めさせていただければと思っております。

また、本日すでに 23 日、日程がいただいたのがちょうど４月来てからということになっており

まして、すでに別の会合入っておりまして、最初の冒頭だけでのごあいさつとなりますが、お許しいただきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

**○白井委員**：文京区観光協会の副会長をさせていただいております、白井と申します。今回観光協会を代表して出させていただいております。観光協会は昨年かなり皆さんが練っていただきまして、文京区観光ビジョンという素晴らしい１つのリーフレットがございまして、これに基づいて、これをもっと具体化をさせていったらいいのではないかなと思っております。文京区内での観光の活性化、あるいは区外からどう人を呼び込むか、いろいろ課題はたくさんあると思いますので、この場を使って皆さまにいろいろなお知恵をいただけたらと思っております。よろしくお願いいたします。

**○奥田委員**：観光財団の奥田でございます。今中井事務局長からお話がありましたけれども、前任の新保さんが私どもの地域振興担当部長というかたちで東商から派遣でお見えになりました。いい機会なので新保さんに交代しようかなとも思いましたが、引き続きという感じでおります。

新保さんのほうが観光は専門なのですが、私はこの観光ビジョンを作りましたときに一緒に参画をさせていただきましたので、そこいらへんを生かしながら検討に参画させていただければと考えております。奥田でございます。よろしくお願いいたします。

**○市川委員**：区民委員の市川でございます。よろしくお願いします。所属はありません。無職でございますので、皆さんと違って肩書きは何もありませんけれども、文京区に住んでいる一員として協力できればと思って参加しております。どうかよろしくお願い申し上げます。

**○小野委員**：観光・国際担当課長の小野でございます。どうぞよろしくお願いします。

**○野口座長**：私は一応座長ということで務めさせていただきますが、杏林大学外国語学部観光交流文化学科、ことし４月１日からスタートした新しい学科でございますが、観光の教育自体はもう 10 年以上やっているのですけれども、ことしからそういった名前の学科を立ち上げましてやっております。勤務先が八王子で、よく八王子に来ていただくと、ここも東京なのですが、大変山深くて、都心が晴れていても雪が降ったりするというそういうとこなんですけど、ぜひ何とかいいものを作りたいなと思っておりますので、皆さまのご協力をいただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

では、事務局からきょう配付されている資料の確認とご説明をお願いできればと思うのですが。

**○事務局**：それでは本日の席上配付資料の確認をさせていただきます。まず、お手元に本日の資料を席上に７点用意させていただきました。１番目が座席表でございます。２番目が先ほど中井委員に替わりました、こちら４月１日付の文京区アカデミー推進計画策定協議会分科会委員名簿でございます。３番目が第４回文京区アカデミー推進計画策定協議会会議録（案）でございます。続きまして次第、こちらの中に添付資料として５点ご用意させていただいております。第１号が第１回の分科会の進め方について。第２号が各分野の体系イメージ。第３号が各論の構成内容（案）。第４号観光事業現況整理資料。第５号観光ビジョン策定協議会資料部会委員のまとめでございます。その次に４番目として文京区観光ビジョン、こちらすでに概要版は協議会本会のほうでお渡ししておりますけれども、こちららが本書になりますので、本日はこちらのほうで説明をさせていただきます。それから５番目、今後の分科会のスケジュール。６番目、こちらがいつも書いていただいております、ご意見シートになります。７番目、最後に文京区アカデミー推進計画基礎調査報告書。以上をお配りしております。

では、まずはじめに本日お配りしております資料の中、前回協議会の会議録（案）の訂正、確認についてでございます。会議録（案）につきましては、本日お持ち帰りいただきまして、４月 27 日火曜までに確認をお願いいたします。訂正がございましたら事務局へご連絡ください。訂正

依頼に基づいて調整した後、会議録を公開いたします。訂正は文書でいただきたいと思っております。ファックス、メールで結構です。ただし、非常に簡易なものについては電話でもお受けいたします。その後協議会の山崎会長に確認し、ホームページ等で公開させていただきます。

次に分科会の運営についてです。第１回協議会の際にご了承いただいておりますが、分科会の会議の傍聴、会議録につきましては、文京区アカデミー推進計画策定協議会の運営に準じた取り扱いとさせていただきます。会議録は分科会の座長である野口先生に確認し、公開することといたします。

それでは早速ですけれども資料の説明をさせていただきます。次第に沿って進めさせていただきますので、こちらの次第のほうをお開きいただけますでしょうか。１ページをおめくりください。第１回分科会の進め方についての資料がございます。こちらについてご説明いたします。第１回分科会のテーマ、１番でございます。観光分科会を除く４つの分科会では、アカデミー推進計画にかかわる文京区の現状を把握し、課題等を洗い出してから検討してまいりますが、観光の分野につきましては、すでに昨年８月に観光ビジョンを策定しております。このビジョンで観光の取り組みの方向性をお示ししておりますので、この分科会ではほかの分科会より早く、具体的にやったらいい事業、やってみたい事業に関する検討に入っていただくことを考えてございます。

続きまして２番、本日のプログラムについてですが、次第と重複する部分がございますので、この場では割愛させていただきます。

それでは１ページおめくりください。２ページですけれども、３、分野別計画の位置付けについてです。こちらは第４回協議会での議論を踏まえまして、協議会の山崎会長に確認をし、まとめさせていただきました。総論につきましては基本理念や基本目標、基本的視点など、計画全体を貫く部分であります。こちらは社会状況の変化に応じて修正を行います。各論につきましては分科会にて検討をお願いする部分でございますが、３年間の計画期間といたしまして検討を進めていただきたいと考えております。

なお、資料観光２分野別の体系イメージ（案）および資料観光３の各論の構成案内（案）を２枚おめくりいただきまして、こちらに資料２と３が付いておりますけれども、こちらをごらんいただきまして、この分科会で検討したものを最終的にどのようなかたちにまとめていくのかのイメージを持っていただければと考えております。観光につきましては、すでに観光ビジョンがございますので、こちらをもとにまとめてまいります。

続きまして、お戻りただきまして、次第の２ページのところ、４、分科会の目的でございます。協議会で議論したアカデミー推進計画の基本理念、基本目標、基本的視点に沿い、各分野の内容をより深く議論して、分野別計画の事業例、数値目標等を作成してまいります。

そして、その具体的なスケジュールでございますが、５番、分科会の流れについての表のとおりに進めてまいりたいと思います。以上でございます。

**○野口座長：**分野別のここでいうと観光ですけども、各分野でいろいろご検討いただいているわけですけど、基本的にはどの分野の分科会においても、原則としては向こう 10 年のことを考えるということが原則でございます。その中で特に 23 年度からの３年間については、もうちょっと具体的にというか、10 年のスパンでものを考えるのですけども、具体的な事業例というか、そういったものを 23 年からの３年間については実際に検討したり、提案したりして取りまとめていこうということを他の分科会とともにここでもやっていくということにしたいと思っています。

それからほかの委員の皆さんはどういうふうにお感じになっているか、後ほどご意見を伺えればと思うのですけども、私なんかはやっぱり最初の全体の会議のときなんかに発言させていただいたのですけど、そもそも何でアカデミーという言葉の付く会議の中で観光を扱うのかという、そもそも論になるわけですけども、あの後私もいろいろ関係者の方と議論したり、私なりにいろいろ考えてみたのですけども、先ほど上田さんのほうから商店街にとっても非常に重要な観光というのはテーマなのだという話をちょうだいしたのですけども、実は観光という言葉が、最近は観光立国なんていう言葉で結構１つの分野として扱っていただけるようになってきているのですけども、ところが今から 10 年ぐらい前までは何と呼んでいたかというと、観光なんていうと、何

かちょっとこういう役所の会議にふさわしくないということで、集客交流というふうに呼んでいたんです。観光産業というのは、集客交流産業だというふうに呼んでいたのです。

ですから、基本的には集客交流というと、集客というと少し経済的な活動というのが含まれてくるわけですけども、そればかりじゃなく交流っていうのですかね、それも大事な部分であるということを過去にはそういった役所の会議なんかでは、観光といわずに集客交流なんていっていたのですけども。

この間やっていただいた区民のアンケートなんかを拝見していると、どうやら文京区に住んでいる皆さんというのは、観光そのものの今それが経済にどういうふうに影響を与えているかということはもちろん関心をお持ちなのですけども、それ以上にどうも自分たちが文京区に住んでいて非常に満足しているのにもかかわらずというか、その満足度と比較すると、例えば知名度がいまいちないのじゃないか。例えば文京区といったら何々、何々といったら文京区と誰もが、日本中の人がすぐいえるようなものっていうのがあるのか。たぶんそんなことを、アイデンティティなんていう言葉もあるわけですけども、いまいち文京区というまち自体をいまいち知られてないのではないかということにお気付きになっているようなのです。

実は私は前の職場は三重県の鈴鹿というところで働いていたのです。ヨーロッパの人に言っても鈴鹿ってすぐ分かります、何せ F1 のサーキットがあるところですから。ところが日本人に鈴鹿サーキット知っているって、もちろん知っているのだけど、あれ、何県にあるか知っているっていうと急に黙っちゃう、名古屋ですか、愛知県ですかって話になっちゃう。ですから、鈴鹿に住んでいる人たちっていうのは、ある意味世界中どこに行っても鈴鹿っていうのは通じるのでプライドは持てるのです。

しかし三重県は、それに比べると少し印象が薄いとか、そういうことがあるので、そういった意味では今回の観光という言葉をいろんなふうに解釈はできるわけですけども、まずは集客交流という視点で、これは観光の大事な考え方なのですけど、やり方のステップなのですけども、知らせて、見せて、また来たいと思わせる、こういうステップでやるべきだという意見があるのですけど、そういう考え方があるのですけど、まずは知らせてっていうところが大事かなという感覚をアンケートなんかを拝見しているとあるなと。

見せてまた来たいと思わせるってところで、リピーターっていうのがあって、それではじめて経済的なベースに乗ってくるということですので、文京区が今までいろんな取り組みをなさってきていると思うのですけども、あらためて区民の皆さんの感覚も含めて、まずは集客交流のきっかけづくりといいますか、そういったことを具体的な事業というかたちで考えていきたい。それが集客して交流すれば、当然そこに経済的な効果っていうのが間接的にというか出てくるはずですので、まずはそういったことを念頭に置いておきたいなと思っております。

後ほどお時間をつくりまして、皆さんに具体的に、じゃあ、人々が集まって交流するというのに具体的にどんな事業というのがあり得るのか。皆さんに具体的に後で案をお出しいただきたいと思っていますので、後ほどこの後事務局さんのほうからすでにある観光ビジョンの説明をしていただきますけれども、それを聞いていただきながら、自分だったらこういう事業をやると、今申し上げたみたいな集客交流ということに寄与するのではないかという具体的な事業を、アイディアを出していただきたいと思っております。

その後の全体の会議の中でも少し議論になっていましたけども、この後基本構想というのがあるわけです。それが上から下かという議論はあまり提案しないほうがいいのかもしれませんけども、上か下かというと上位計画になりますので上なのでしょうけども、それと今回ここで議論することとか、それから協議会の全体会議で議論することとの整合性については、両方を見ながら事務局なり、私のほうでそのへんを調整してみたいな、もし必要があれば皆さんにご相談をしていきたいと思っております。

ですから、ぜひ上位概念が、上位構想がこうだからとか、基本構想はこうなっているからとか、あまりそういうことにこの場ではこだわらずに、できるだけ自由に発想していただいたほうがいいのかなというふうに、そのために人数も絞られた人数でやっていますので、全体会議とは違った進め方で活発にやれたらいいなと願っております。

では、観光の現状につきまして、事務局さんのほうからご説明いただきたいと思うのですが。

**○事務局**：それでは観光分野の現況について説明をさせていただきます。次第のほうの８ページになります。資料観光第４号というのをごらんいただけますでしょうか。その次に９ページ、こちらも併せて２枚ごらんいただければと思います。

８ページは21年度の観光事業を９つお示しをしております。そのうちの助成事業が５つございます。番号でいいますと１から３、花の五大まつり、朝顔ほおずき市、下町まつり、それとこの５番、観光リーフレット作成助成、７番の観光協会観光振興助成ということになります。１から３までは、文京区で行われておりますお祭りに対する補助金の交付ということでございます。それから５番と７番につきましては、観光協会に対する補助金の交付ということでございます。そのほか観光まつり振興、こちらは観光ポスターの作成など、観光の振興に関する事業。それから６番は観光案内板の整備、こちらはまちに設置してあります観光案内板の修繕を行うという事業でございます。それから８番目、観光インフォメーションの運営でございます。こちらは21年度からの事業でございまして、文京シビックセンター１階に４月３日オープンした観光案内所の運営事業でございます。それから９番目、昨年度策定させていただいた観光ビジョンの事業ということになります。こちらが21年度の事業になります。

引き続き22年度の事業、９ページをごらんください。すでに観光ビジョンの策定は終了しておりますので、22年度の資料では抜けておりますけれども、１番目から７番目までは昨年度と同規模の事業を実施してまいります。そして８番目、観光インフォメーション運営のところですけれども、拡充となっております。こちらは今年度新たに観光ガイドを育成を考えるものでございます。その部分が拡充ということでございまして、新規事業、こちらは９と10、これは案内標識等統一化計画の策定、区内全標識の実態を把握し、各所管とともに既存標識の集約、改修および新標識の設置にかかるガイドライン等を策定します。こちらは区民課、それから土木管理課であるとか、それぞれ所管しています案内標識、区の組織を横断して取り組む事業でございます。10番目、まちあるきルート開発、こちらは委託事業でございまして、区内観光資源等を洗い出し、それらを活用したルート開発をするとともに、その販売までをも行うという事業でございます。以上が現況の説明でございます。

**○野口座長**：いろんなことをされているところです。観光のこの分科会については、先ほどご案内あったみたいに、観光ビジョンというのがすでにあるということで、お手元にもあります。奥田さんもかかわっていただいたということで、思い出していただきながらぜひやっていただきたい。

拝見しましたけれども、大変バランスの取れたものだと思い、逆に言うと具体化をしなければ意味がないので、その点について、この観光ビジョンそのものについてご説明を事務局のほうからお願いしたいと思います。

**○事務局**：では、引き続き私のほうから観光ビジョンについて説明をさせていただきます。先に観光ビジョンの方向性を定めるに当たりまして、文京区の観光を取り巻く現状と課題を検討しております。こちらの観光ビジョンの26ページと27ページをお開きいただけますでしょうか。まずこちらのほうから説明をさせていただきたいと思います。文京区の観光振興に向けた可能性と課題と書いてございまして、この観光ビジョンでは区内の実態から見た可能性と課題、それから国内等の実態・動向から見た可能性と課題の２つに整理してございます。

26ページ、区内の実態から見た可能性をごらんください。文京区観光資源、宿泊施設・商業施設等、交通など、それぞれ項目ごとに課題・可能性を整理しております。活用できる可能性、文京区の観光資源の４番目をごらんいただきますと、坂道や路地が生み出す景観は変化に富んでいるとなっております。これに対しまして右側、克服すべき課題、文京区の観光資源の黒丸２番目に坂道が多く、長時間歩くことが難しいとなってございまして、このように坂道が可能性にも課題にもなる、相反するものになるということでございます。このようなかたちで可能性と課題の

中で相反する事項として出ているものと、27ページのほうで活用できる可能性の国内旅行余暇時間の志向と動向の上のほうで、行ってみたい旅行タイプとして「周遊観光（歴史・文化）」が根強い人気を保つ。（「財団法人日本交通公社　旅行者動向」より）となっておりまして、このように資料のJTBFの旅行動向の調査書より抽出したものを活用して整理したという、この２つのタイプで整理しています。このように委員の皆さまの意見、それから各種資料から文京区の可能性と課題をまとめたものでございます。

こちらははじめてごらんいただく方もいらっしゃるかと思いますので、後ほど可能性と課題のほうをお話をいただくようになるかと思いますので、こちらのほうをまた後ほどよくごらんいただければと思います。

引き続きまして、観光ビジョンについての説明をさせていただきたいと思います。この観光ビジョンは平成20年の９月から昨年８月まで、文京区観光ビジョン策定協議会を８回開催し、その協議会の答申を踏まえて定めたものでございます。観光による地域の活性化や新たな価値の創出を図るため、区の観光振興の指針となる文京区観光ビジョンを策定いたしました。

今申し上げましたとおり、本区の可能性と課題、それから文京区の観光の実態を整理し、区民と来訪者双方の視点から作成しています。この区民と来訪者双方の視点で検討したことが文京区の観光ビジョンの特徴であるといえます。

それでは本書の48ページをお開きいただけますでしょうか。こちらのほうに、概要版のほうでもすでにお目に掛けているところでございますが体系図となっておりまして、こちらのほうで説明をさせていただきたいと思います。理念は「行ってみたい、来てほしい、文の京」、観光ビジョンを貫く基本的な考えをキーワードで表現をしております。こちらも行ってみたいというのは来訪者の言葉、来てほしいというのは区民の言葉、このように区民と来訪者双方の視点ということがこちらのほうで表現されております。

目標は３つございまして、１番、四季折々の魅力をもった文の京をつくる。それからおもてなしの心溢れる文の京をつくる。３番目、歴史と文化を大切にする文の京をつくる。と３つ掲げております。理念を踏まえて観光ビジョンの実現を目指すために掲げるものでございます。

それから基本方針、こちらも３つございます。目標実現のための基本的な考え方で、具体的な取り組みを行う際に共通する考え方となります。１番目がまちあるきを促進することにより文化・産業を活性化する。２番、住んでみたい、住み続けたいまちづくりを実現する。３番、多様な主体がそれぞれ担い手となるとなっております。

それから取り組みの柱は６つございます。こちらの少し大きく書かれているところが取り組みの柱でございます。その下に基本方針が３つないしは４つぶら下がっております。基本方針にのっとり、目標実現のために基本施策を行うことになりますが、その取り組みを大きく分けたものが取り組みの柱となっています。概要版をお渡しした際にはこちらの部分だけが載っておりまして、前をおめくりいただきますと、36ページから取り組みの柱、基本施策、一つ一つの内容がどういうことなのかということを文章でお示しをしております。

それから次第とともに閉じております10ページ、資料観光第５項、観光ビジョン策定協議会資料部会意見のまとめをごらんいただけますでしょうか。こちらは部会意見のまとめは、取り組みの柱ごとに整理しています。部会の中で皆さまからいただいた意見でありますとか、協議会本会の中でいただいたもの、これらをまとめてこちらにお示しをしております。こちらは今からご検討いただきます課題、事業例を考える際に参考にしていただければと思います。以上で簡単でございますけれども、説明を終わらせていただきます。

**○市川委員**：すいません。質問をしてもよろしいでしょうか。観光ビジョンの概要版で、最初に都市基盤の充実というのが入っているのですが、今ここで区民と来訪者と分けてお話になっておりましたけども、来訪者イコール区民と考えてもよろしいのですよね、区民が来訪者ですよと、区民と来訪者を分けないといけないのでしょうか。この記述を見ますと分けて、別々の視点から読んでいます、書いていますと先ほどおっしゃっていたのですが、そうではないのですよね、区民も来訪者でいいのですよね。これはペンディングでいいです。

**○野口座長：**私なりに解釈するとすれば、訪れる人と迎え入れる人というのがいるとすると、区民が区民をお迎えするときもあれば、区以外の方をお迎えするときもあるし、それはホストとゲストがどう入れ替わるかというのは、そのとき、そのときによって違うので、ですから区民の可能性があれば、区外の方を区民の方がお迎えするというシチュエーションがあるかもしれないし、それは両方。

**○市川委員：**だから来訪者といわれているのは、区外の人間だけじゃないと理解したのですが。

**○野口座長：**そうですね、域内の観光も入ってくるということです。

**○市川委員：**あと、まちなかというのはまちの中という意味ですよね。まちなかにいっぱいいろんなことがありますと記述があるのですが、例えば 48 ページ、いただいた概要版じゃないほうですけども、取り組みの柱の１、文の京の誇りとなるまちなかの魅力発掘と磨き上げ。まちなかというのはまちの中という意味ですか。

**○事務局：**まちの中です。

**○市川委員：**何か別なイメージがあるわけではないのですね。あとやっぱり 48 ページなのですけれども、基本方針の３番、多様な主体がそれぞれ担い手となるという主体と、取り組みの柱と基本施策の取り組みの柱６の、ポチの一番上です。各主体の役割の明確化と連携、ここでいう各主体というのは何をイメージすればよろしいのですか。ステークホルダー全員ですか。ということは、全国民、ワールドワイドでということなのでしょうか。

**○小野委員：**宿泊事業者ですとか、商店街の事業者、あと産業事業者など色々な団体があり、それぞれが主体としてということです。

**○市川委員：**事業団体、個人ではないという。

**○小野委員：**それもありますし、あと地域の皆さんが活動している NPO とかもありますから、人が集まって構成している団体、または個人で活動している。

**○市川委員：**ということは、かかわる人すべてということ。

**○小野委員：**そうです。先ほど区民が区民をというのを市川さんがおっしゃった、まさに区民というのは生活者で、その視点でおもてなしをしましょう。区民が観光客として、来訪者になるということは当然あると思います。

**○市川委員：**あともう１つ 48 ページ、これは概要版でもあったのですけども、基本方針の②で、住んでみたい、住み続けたいまちづくりを実現するというのは、取り組みの柱と基本施策のどこに落ちているか教えていただけないでしょうか。読み方分からなかったのですけども、取り組みの柱と基本施策を実施すれば、基本方針が満足されると読むのか、基本方針を満足するための施策が１から６ですと、同じこといっているのですが、と解釈すると基本方針の②住んでみたい、住み続けたいまちづくりを実現するための施策はどれに当たるのかと思っているのですが。

**○事務局：**６つの取り組みの柱を総合的に進めることによって、基本方針が達成されるというつくりになっているのです。ですので、どこに当たるというのは、これが一つ一つの細かいところで、達成されればそういうまちづくりになるであろうということです。

**○市川委員：**そういうふうに読む。この矢印はブレークダウンしていった矢印ではないということですね。

**○事務局：**６つにかかっているのです、上の。理念、目標、基本方針というのは、この６の柱に全体を貫いているというふうに見ていただけるとよろしいのですけれども。

**○市川委員：**分かりました。

**○事務局：**それと先ほどの各主体の話なのですけれども、46ページのところの文章を読んでいただけると、こちらに具体的にまちづくりの担い手はというところから、どういうところなのだよという話が出ておりますので、こちらをお読みいただければお分かりいただける。

**○市川委員：**これが主体ということですね。あと文京区らしさ、文の京らしさというイメージが出ているのですけども、例えば取り組みの柱２の文の京らしいというイメージは、これをつくられた方々はイメージを持ってつくられたのでしょうか。もしあればどんなイメージなのか、外された方たちにご意見、僕も意味が分かんなかったものですから。

**○小野委員：**文の京らしいというのは、38ページに文章として出ているのですけど、これが文の京らしいかどうかというのは、受け取る人によってちょっと違うのでしょうけれども、文京区は都会的な景観の中で情緒があったり、歴史的、文化的な史跡があったりと、文京区ならではというのが１つあると思うのです。そのへんが文京区らしいということです。こうした景観への取り組みとして都市景観賞を行っていますということをこの中で書いています。

**○市川委員：**分かりました。読ませていただきます。

**○野口座長：**ほかの皆さんはいかがでしょうか。これは今回観光の分科会にとっては、この冊子というか、このビジョンに沿っていきたいという、ほかの分科会はこれがなくておそらくお困りになっているというか、そもそも１回目にこれがないのでこれを議論しているのだと思うのですけど、われわれはたまたま最初からこれが出来たてホヤホヤのものがあるので、それに沿っていきたいと思っています。もし現時点でご不明な点があれば、今明らかにしておいたほうがいいかなと思います。

**○市川委員：**概要版しか読んでなかったものですから、もう一度これを読ませていただいてからと思っています。

**○野口座長：**おそらくこれは観光の専門の先生が座長か、委員長か何かでお進めになって、さらに観光系のコンサルが入っているので、市川さんなんかが疑問に持たれたみたいに、何で住むという話と観光と関係するのだという、たぶんそこに論理の飛躍を感じる部分はあるかもしれないですけど。

**○市川委員：**住みたいまちはよく分かったのです。住みたいまちを実現するための施策は何なのかなとちょっと思ったのです。

**○野口座長：**そうなのです。ですから、じゃあ、住みたいまちというのは、例えば自転車の不法放置というか、そういうのがないところがいいとか、いろんな考え方があって、落書きが少ないとか、そういうのが結果的には観光につながるとかっていろんなことがあって、だから住んで良し、訪れて良しというのが最近キーワードで出てくるわけですけども、やっぱり人々がそこに住

んでいて、楽しそうに暮らしているとこじゃないと人も訪れないという、そんなことが全体としてあって、治安の向上とか、そういった観光とは直接つながらないことも、実はニューヨークなんかそうですよね、治安が良くなって観光客が増えた。

ですから、必ずしも観光だけで解決するわけじゃないのですけど、そういった意味ではここには入ってきてないことがたくさんあって、もちろんこの中にも、先ほど主体なんて話ありましたけど、主体かどうかっていうのは、その人が観光にかかわろうと思ったか、思ってないかということで、本当は観光に関心を持ってもらいたい個人とか、団体とかがあって、もっと主体になってよって、逆に呼び掛けたい組織とか、個人もあるぐらいで、主体というのは皆さんが自分は主体なのだと思えば主体になるというのが観光のまちづくりの考え方だなと思うのですけども。

ちょっと戻っていただいて、最初課題ですよね、26 ページ、27 ページですけども、このへんで何かお気付きの点とか、ご意見とか、何かないですか。坂道なんかどうなのですか、実際は。

**○市川委員：**いいと思いますけど、僕は好きですけど、本郷台地から下りてきて上野のほうまで行く。

**○野口座長：**そうですよね。

**○奥田委員：**これは私が言ったので。

**○市川委員：**ちょうど京浜東北線がありますよね。あの東京から上野に向かった右側は一切坂ない、左側だけなので、それはそれで僕はいい観光材料になるのではないかなと思っています。

**○奥田委員：**坂道があって、丁寧にそれぞれ名前が付けてあって、それで説明書きが付いているのですよね。それをたどりながら、説明見ながら歩いていると、昔のいわく因縁みたいなものも書かれていて非常に面白いのですよね。ただ、外国語の表記がないので先行きがちょっと限界があるかな、もったいないという感覚でしたね、当時は。

**○野口座長：**NHK で一時期すごく話題になった『ブラタモリ』という、タモリがブラブラするというので坂道の魅力なんて言っていましたけど、まさに今奥田さんがおっしゃるとおり、市川さんがおっしゃるとおり、坂道って非常に魅力的で、面白い観光のきっかけになるのです。

一方で長崎県は、今その坂道で困っておりまして、やたらめったら坂道があそこもありますので、いわゆるパッケージなんかで行かれる方なんかは、一部やっぱり坂があるから心配ねって旅行会社と相談するということがあるみたいなので、あんまりそれがネガティブなインパクトで伝わっちゃうのも損なので、そこらへんは魅力をね、今おっしゃったみたいに外国人から見たらどう見えるのだろうか、そんなようなこともしかしたら表現していくといいかもしれないですよね。

**○市川委員：**長崎に比べて距離は短いと思うのですよね。

**○奥田委員：**でも坂は結構急ですよね。

**○市川委員：**急です。

**○奥田委員：**上がると息が切れちゃったり、宅急便のお兄さんが上がらないので周りが助けてやったりとか、結構きついんですよ。

**○上田委員：**文京区の坂道っていうのは、文京区という行政区をどうしてこういうくくりにしたかちょっと分かんないですけど、いわゆる武蔵野丘陵の崖っぷちですよね。ですから、崖っぷち

ということは、昔は海だったのでしょうね、根津のほうは。ですから、あの辺りに人がいっぱい住んでいた。小石川の植物園には貝塚もあります。それから東大の横には弥生式土器もあります。あの辺の人たちが海岸に住んでいたという証拠になるわけです。文京区っていうのはそこから育ってきたまちだというふうに考えていただければ面白いのではないかと思うわけです。

万葉集の中でも豊島郡何か出てきますから、ちょっと歌は忘れてしまいましたけどね、防人の歌の中に文京区内、あの辺の歌が１つ、２つ出ていますしね。今から 2,000 年ぐらい前からズーッと下りてきて現代までつなぐ文京区の人たちの生活だとか、社会の移り変わりだとか、そのへんを考えてみたいという人が文京区に来てくれれば、そういう目的意識というか、そういうイマジネーションを持って観光として来ていただければ、結構楽しいまちになるのではないかなと思っているわけです。そのためのインフラづくりをこちらのほうでしてやりたいなと思っています。

それから担い手、うちのほうの商店街ですと担い手のほうは若者、ばか者、よそ者というこの３つの者が大切だといわれているのです。まずは若い人たちにやってもらわないと実際の活動ができない。それから客観的にものを見るためにはよそから入ってくる人が少し手伝ってもらわないとできない。それから自分の仕事をほっぽり出してばかになって手伝ってくれるばか者です。これがいることによってまちがものすごく活性化するわけです。そうすると活性化したまちには人が集まってくるということなのです。

例えばお祭りのおみこしを担ぐ担ぎ手の何とかっていう組織ある。うちの町会でも青年部つくりまして、そういうばか者が 12～13 人います。埼玉県のほうから、この間はサザエさん通り商店街ですか、世田谷の桜新町、あそこまでわざわざ担ぎに行くという人もいますので、そういうかたちでこちらから行けばまた向こうからも来てくれるというかたちで、文京区とか、小石川とか、本郷とか、根津とか、そういうまちを周りの人が認識してくれるのではないかと思っているわけです。

それと文京区は大学が多いじゃないですか、全国から学生として集まってくる人がいますので、その人たちに何か手伝ってもらうような、学生に対してボランティア活動をさせながら文京区のまちを見てもらい、認識してもらう。その人たちが卒業して、どこか転勤して外に行ったときに、たまたま東京に出てきたときに、うちにも時々来るのですよね、山形から出てきて、日大山形高校から日大に入ってきて、現在山形県の村役場か何かに勤めているのです。たまたま研修に来るとうちに寄るわけです、うちでアルバイトしましたので、前に。そういう方たちをいっぱいつくっていくことによって、観光事業という１つの原点をもう一度考え直してもらえれば、楽しい事業になるんじゃないかと思っています。

**○奥田委員：**だから私もまったく同じ意見なのですけれど、最初にこの観光ビジョンの委員に選ばれて、最初のときに、文京区は観光ビジョンいらないのではないですかって、すごく観光素材が豊富だし、結構環境整備も行き届いているし、黙っていても人が来るような状況があるのではないのかなと思っていたので、何もことさらにこのビジョンを作らなくたって、少なくとも素材の部分においてはもう足りているのではないのというような趣旨のことを申し上げたのですけれど、その考えというのは今でも感じとしてあまり変わってなくて、今回行政計画レベルでもって取り組むべきことを拾いだす際も、取り組みの柱の１番、２番にあるようなハード的なものだとか、あるいは資源の発掘活用だとかそういうところよりは、むしろもっと来てもらうための工夫だとか、住民が参加してもらうための工夫だとか、今おっしゃった学生さん、区役所の職員も含めて、そういったかたちでもって交流を現実的につくっていっちゃうというような、そういうソフト的なところに工夫を凝らしたほうが文京区らしいんじゃないのかなという感じが今でも強くします。文京区は非常にリッチだと思うのですね、観光面で、ほかの区を見たら嫌になっちゃうぐらいですよね。

**○野口座長：**おそらくは行政区の区切りというのはお国が決めたわけでしょうけども、しかしその中に大学を入れようかとか、そこまで考えたわけじゃなくて、線を引いたらたまたまそのなかにいろんなものが入っていたっていうだけなので、どうしても文京区として議論しなきゃいけな

いのは、その線に入っているものの中でビジョンというのを示さなきゃいけないので、個々がもちろん立派だというのは素晴らしいことなのですけども、おそらくは区としてどうなのだということは示さなきゃいけないので、こういうビジョンというのはなきゃいけないのだと思うのです。

そのシナジーというのはあるはずなのですね、つまり相乗効果というか、それが単体で素晴らしいというのはもちろんそうなのですけども、全体としての相乗効果とか、もしくは直接観光じゃないのだけども、例えば観光客が来たことによって、今はスカイツリーの周りの喫茶店は込んでいるという話がありますけども、昔はガラガラだったけど最近はお客さんが込んでいる、そういうようなことがやっぱりなきゃいけないので、そういう意味でビジョンというのはないよりあったほうがいい部分はもちろんあって。

だから本当だったら今奥田さんがおっしゃったみたいに、こういうビジョンを作るときどうするかというと、まずは観光資源の発掘から始めるのです。でもそれをしなくていいというのは本当ラッキーなことで、むしろ今あるものをどう組み合わせようかとか、それを使ってどんなイベントができるだろうって、プラス志向で議論できるというのは、だいたいこういう委員会で議論すると何もないようちのまちはってところから始まるので、そういう意味ではこれもあります、あれもありますという議論になるのは本当に素晴らしいことだなと思っているのですけども。

先ほどの 48 ページ、ビジョンの体系図というのがあるわけですけども、先ほど市川さんからいろんなお話ありましたけど、ほかに皆さまからいかがでしょうか、これをごらんいただいてもし足りないところとかがあれば、こういうのはどこに入るのだとか。

**○市川委員：**ちょっと外れているかもしれないのですけれども、例えば文京区で今奥田さんのほうからありましたけど、いろんな旧跡とか、名所、神社、仏閣が多いのです。文京区でもそういう本を出していますよね、文京区の歴史とか、文京区マップとか、文京区の教育委員会のほうで出しているので、それを読むとだいぶん分かるのですけども、いざその場に行ってみると周りは何もないのです。

つまり例えば護国寺に行ったって何もないです、それからあそこの傳通院に行っても閑散としていますよね。それから吉祥寺に行っても何もないです。つまり名所・旧跡はあっても、行って歩くだけの人がいいのだったらそれで楽しいと思うのですけども、じゃあ、一服しようかとか、飯を食おうとか、お茶を飲もう、お土産でも買って帰ろうかって、何もないものですから、もう二度と行きたくないと思う、１回行ったらもういいでしょうってなっちゃうのです。

そういうのがあってリピーターというのは少ないのではないかなって気がします。僕も同じところ何回も行かない。本を見てここ行こう、ここ行こうって、歩いて坂が多いですから、ああ疲れた、休もうと思っても周りに何もない、あると１軒や２軒でそこしかないのっていう感じです。そういった印象を持っています。だから歩くのが好きな人にはとてもいいところです。

**○野口座長：**それは取り組みの柱の４番とかにあるような情報発信のツールで、情報発信の紙は作っているのだけども、現場に説明がないとか。

**○市川委員：**僕は情報発信という言葉がいいのか分かんない。情報送信でもね、送信というのは送るですよね、ということは必ず受け取り手がいるので、送信する、ちょっと考えていたのですけども、うまく送信できていればいつでも、だから受け取り手がいる人に送れる、区民全員に送信できればいいなと思う。

**○野口座長：**今の感想をお聞きすると、現場に行ってそこに何か説明書きがあったり、地図のこの場所なのですよとかってリンクしてないとやっぱり歩きづらいでしょうし、そこに長く滞在するためにはお茶の１杯でも飲めたほうがいいだろうとか、そういう意味では、こういう言い方が適切かどうか分かりませんけど、それに頼ってないというか、観光資源はたくさんあるけども、地方に行けば観光資源の周りにみんなお土産もの屋さんつくるっていうのはたくさんあるので、そういう意味では、そういう感覚では、今のところ区民の皆さんも、市民の皆さんも、事業者の

皆さんも今のところそういうようなやり方はしてないというのが現状なのだと思います。

**○白井委員：**それは歩いている方たちによくいわれて、歩くのにやっぱりお年を召していますとトイレが近くなりますよね。ですから、ちょっとトイレに入りがてらちょっとお茶を飲むところとか、お食事できるところとかっていうのとか、あとお土産屋さんですよね。例えば護国寺で大河ドラマやったときに、みんなあそこの局さんがつくったところなのですね。

**○市川委員：**桂昌院。

**○白井委員：**そうですね。それを知っている人は一時期人が行ったのですよね。でもそれを区としては何もやらないですし、護国寺さんとしてもやらないですし、どうしてもっとそこを皆さんアピールしないのかなと思ったのですけども、それがいろんな大きなお寺さんが文京区の中にありまして、そこで例えば有名な方のお墓とかがある。一つ一つのお寺さんにそういうのがあるわけです。それを調べていって、じゃあ、誰さんのお墓行こうと思ったらたくさん回らなきゃいけない。それを調べて分かるぐらいで、文京区の人だってよく知らないというところがあります。やっぱりまったくこれからじゃないかなという。

文京区としても資料をたくさん作るのですけれども、結局使いこなしてないというか、お金をかけて大層立派には作るのですけれども、じゃあ、これはどういう方たちにどういうふうに手渡されているのかというのがよく分からないし、今度もまた百選（食の文京ブランド１００選）ができましたので、そういうのとまたリンクしたらいいのではないかなとか、いろいろあるのだけども、やっぱりそれを打ち出す広報ですとか、例えば花の五大まつりについても、ツツジは根津神社はテレビでやるのです、ちょっと根津神社の様子を映したりするとすごい人が行くわけです。ですから、やっぱりマスコミの力ってものすごいなっていうふうに思って、そういうのをどういうふうに取り込んで、どういうアピールの仕方をしたらいいのかなと思います。

文京区はたくさんありすぎるから、焦点が定まらないのですよね。さっきおっしゃったように、じゃあ、文京区は何だといったときにたくさんありすぎるわけです。それで今観光協会ってところで花の五大まつりってありますけれども、その花の五大まつりというのもすごく抽象的で、どうもこれはよくない、まずいのではないかなと思っているのですけど、何かお寺さんはたくさんあるし、有名なお寺さんあるしっていうので、亡くなった文豪の方はいらっしゃるし、東大はあるし、何をメインにしていったらいいだろうということを私もいつも考えているのですけども。

**○野口座長：**お時間もあるので、どうでしょうか、一応この後もう少し具体的なことを考えていきたいと思うのですけども、だいたい予定ではあと 30 分強ぐらいはお時間いただきたいと思うのですけど、休憩を取りましょうか、それともこのまま。

**○上田委員：**いや、続けましょう。

**○野口座長：**では、続けさせていただいて。

**○上田委員：**実はおととし商工会議所で観光事業のビジョンの策定というものをちょっとやっていたのですよ、前任者の新保さんとか、元ダイエーの広告を担当していた部長さんのとか、そういう人たちでちょっとやっていました。一番問題は、迎える側のほうの意識が弱すぎるのではないか、例えば日曜日はお店はみんな休んじゃいます。喫茶店まで休んじゃう。休むところがないなんて、あっても休んじゃう。それで何か協力して盛り上げようということになりますと、地元の商店とか、そういう人たちが行きますね。そうするとその商店のご主人が行っちゃうと、お店が開かなくなっちゃう。そのご主人とか、そういう人たちだけで何とかやっていますので、ですから、その場合どうしたらいいか。お店を開けながらそういうものに協力していく方法っていうのをいろいろ考えていたのですけど結論は出ないです。

特に文京区には有名なお寺がいっぱいあります。いろんなお寺の中で、前にそこのお寺を使って何かやろうかなという話があったとき、結構文京区のお寺というのはきちんとしたお檀家さんを持ったお寺さんが多いのです。それではっきり言われましたのは、うちは観光寺ではありませんので、観光客が入ってくると困りますというお寺さんも中にはあります。そんなこんなで、結構受け手側の問題がかなりあるのです。だからそれをどうクリアしていくかって、なかなか難しいですね、今のところは。

**○野口座長：**全体の会議のときもそうでしたし、今お話を聞いていてもそうなのですけど、それから区民の皆さんのアンケート結果なんか見てもそうなのですけども、やっぱり先ほど申し上げたみたいに、ほかの地域だったら観光資源があったら、それにみんな寄っていたかって、何とかご飯食べようというふうにするわけですけど、そういう意味ではそういうふうにされないって、もしくはスカイツリーの周りのお店なんかは、もうそろそろ年取ったからお店しようかなと思ったら急にお客さんが増えてきたから、しょうがないから続けていますなんていう、そんなお店もあって、そういう意味では観光への依存度というのですか、どの程度そういうことに依存しているのかっていうことによっても、やっぱり住民の皆さん、区民の皆さんの感覚も違うでしょう。京都の方なんていうのはよくいわれますけども、本当は結構排他的な文化を持っているのですけども、しかしよそから来た人に対しては一人一人本当に丁寧に案内してくれる。

**○市川委員：**しかしこれは拝観料を取っているよね。

**○野口座長：**お寺さんなんかはそうですけど、一般の市民の人たちが道を尋ねても結構丁寧に教えてくれるのです。それは京都もたくさん観光資源あるのですけど、やっぱりそれだけじゃ駄目で、そこに地元の人たちが、それで京都成り立っているのだという意識があるというはやっぱり違うのだと思うのです。

そういう意味では、すぐに今お話があったみたいな、観光資源の周りにお土産もの屋さんができたり、飲食店ができたりって、すぐそうならないかもしれないですけども、でもそれがいつかそうなれば仕掛け作りっていうのは今からして置かなきゃいけないのかなと思うのですけど。

どうでしょうか、今書きましょうか、これをそろそろ始めましょうか。

**○事務局：**もう休みなく始めますか。

**○市川委員：**何か圧倒的な観光資源ってないのですか。

**○上田委員：**圧倒的ですか。

**○市川委員：**例えばスカイツリーみたいなのできたら圧倒的ですよね。こういうのではなくて、圧倒的なのがやっぱりないと、観光というのは目玉にならないのかなという気はしたのです。

**○野口座長：**それは逆に言うと、皆さんの生活の基盤が観光にないということなのです。それは生活の、何、どういうお仕事で生活されているかっていうのが変わらない限り、たぶんそんなに簡単には変わらないのだと思うのです、おそらくは。

**○市川委員：**そうですよね。ただ、スカイツリーは、たぶん外的要因でできましたよね、圧倒的な観光資源になったわけです。

**○野口座長：**でもあれはちゃんと決めるときの議論の中で、どこにできたほうが効果的、東京都とか、日本全国の中でどこに建てたら効果的かということまで専門家が考えてあそこを選んだそうなので。

**○市川委員：**そこに住んでいる人たちはいわゆる外的な要因で観光施設になってしまったととらえてもよろしいのですか。

**○野口座長：**もちろん地元の人たちも要望したのでしょうし、候補地になれば当然誘致はしたのでしょうけど、でもやっぱり専門家の人たちが、どこに建てたら一番効果的、東京というまちとか、日本という国のレベルでどこにつくったら効果的かという議論はしたらしいです。

皆さんからいろんなご意見が出て、ちょっとメモもしていただいたのですけど、同時に今お手元に付箋紙があるのですけども、マジックペンありますか。これに何かちょっと今おっしゃった、例えば観光地のそばに必ず喫茶店をつくろう事業とか、何かそういうかたちでお気付きの組み合わせというか、事業を、格好いい名前じゃなくてもいいですから、今みたいに観光資源の周りに喫茶店をつくろう事業でもいいのですけども、何かそういうのを幾つか書いていただいて、それをコンサルの今回は富士通総研さん入っているので、ちょっとまとめていただけると。今どうでしょうか、８時ちょっとくらいまで皆さんに考えていただいて、それを書いていただいて、出来上がったものを後で整理していただこうかと、皆さんアイディア出しをしていただけると。

**○奥田委員：**すいません、お尋ねしたいのですが、アイディア出しというのは今日中にやり遂げないといけないのですか。

**○野口座長：**きょう出た分はきょう整理して、もちろん後で思い付いて追加、あとは後ほどご提案しようと思ったのは、今まさにご議論あったみたいに、かなり観光資源があるので、奥田さんが極端におっしゃったみたいにビジョンなくてもいいぐらいじゃないかというぐらい充実しているので、そういう意味では、例えば似たような地域でどんなほかの市町村とか、自治体で、文京区さんにまったく同じところってないのですけども、ほかのところではどんなふうな施策を実際にしているのか、まねするというのはときには有効ですので、ほかのところを後々調べていただいて、それをリストにして、文京区これ合っているねとか、これはうちは無理だよとか、何かそういうことを精査していただいて、それを後々加えていってもいいと思うのです。それでまた全体として精査していくということもしようか。きょうはそういう既存のどこかの役所が考えたことじゃなくて、せっかくきょうは皆さん集まっていただいたので、皆さんのアイディアを取りあえず今思い付くだけ書いてみようじゃないかというふうにしたい。もちろん全体のまとめをきょうだけで決めるわけじゃないです。

**○市川委員：**文京区とよく似ているところの調査というのは、文京区ではやられてないのですか、区の観光課とか、そういうミッションはないのですか。ごめんなさい、こういう聞き方しちゃいけないですけど。

**○小野委員：**まさに「観光ビジョン」が作られたばかり、観光をこれからやっていきましょうよという状況ですので、まだまだ観光というのは文京区としては進んでおらず、まさにこれからです。

**○奥田委員：**話戻っちゃって申し訳ないのですが、そうすると具体的なアイディアをどんどん出していくと、それは第一弾なのだけど、あと何回もやって、そのうちに盛り付けを完成させるというお話ですよね。

**○野口座長：**ただ、先ほどお話しましたけど、ほかの分科会さんはこれがないので、１回目、２回目はこれそのものを作ろうというところからスタートしているのですけど、そういう意味でうちは最初からこれがあるので、できれば 48 ページに書かれている体系図があると思うのですけども、実際に取り組みの柱というのがありますよね。これを実現するには具体的にどんなイベント

なのか、何なのか分かりませんけども、具体的に事業をどんなことをやるべきなのか、これを見ながら今アイディア出しをしていただきたい。

**○奥田委員：**具体的なアイディア出しというのは何回か繰り返して完成させるということであればそれはそれで宜しいんですが、これは前もって、私もほとんど忘れかけているのですけど、皆さんも前もってそういうかたちで考えてないのじゃないのかな。

**○野口座長：**なるほど、そうですね。

**○奥田委員：**うんとあると思うのですよ、それぞれの立ち位置で。本当に勝手なのですけれども、宿題にしていただいて、それでこの６つの柱に全部埋めなきゃいけないっていわれちゃうと困っちゃうのですけど、いろいろ考えてはまるやつはこの６つの枠にはめてこいというかたちで、持ち帰らせていただくと、結構集まると思うのです。
　私も実はここに来るのを忘れていまして、途中で思い出してここに来たぐらいで、村に帰るとそれらしい素材があるのですけど、今ここで出せっていわれるとどうしようかなって、ちょっと困っちゃったのですけど。

**○野口座長：**まったくおっしゃるとおりで、ここで急にイベントのプロだったらいろんなことが出てくるのかもしれませんけれど、確かに私も今この場で作れというと一般的なことしか思い付かないのではないかって気もするので、お持ち帰りいただいてやっていただく部分もあっていいかなと思うのですけど。

**○事務局：**きょうの時点では、ここにお集まりの方々がやったらよい、事業案でやってみたいというものを思い付くところ、今座長よりご説明があった 48 ページのものと、この前にちょっと汚い字で申し訳ないのですけどご議論いただいたものなどをご参考いただいて、この時点でクラッシュアイディアで結構だと思うのです。上がこのシールを張るようなかたちに持っていただいて、１つの付箋になるべく大きな、こんな事業をやってみたい、やったらいいのではなかろうかというところと、あとこれはお願いなのですけど、右下のところにどなたがそれを書いたのかというところ、上田なら上田ということを書いていただければと。

**○上田委員：**遅いのだ、言うの。

**○事務局：**すいません。

**○上田委員：**書けなくなっちゃった。

**○事務局：**分かるように書いていただければありがたいなと思います。その後に、今ちょうどいただきました、いつもお願いしています、ご意見アンケートみたいなものをお願いしています。そちらのところにたくさんお書きいただけるとありがたいと思います。それをまた整理させていただいて、また次回に反映していきたいと思っておりますのでお願いします。

**○野口座長：**逆に言うと、おうちに帰られてじっくり調べてご提案いただくものもあると思うのですけど、今この場でパッと思い付いたというのももしかしたら後々グッドアイディアかもしれないので、もうちょこっと、私も頑張ってみますので、皆さまも頑張って。８時５分ぐらいまで、休憩とアイディア出しと両方並行してやりましょうか。

（書き出し作業中）

**○野口座長：**さて、本当に限られた時間で、かつじっくり資料を見ていただくこともないまま、今思い付いた感じで書いていただいたのですけども、ちょっと説明がほしいというのがあれば。もしくは多い意見はどれだというのもいいですけど。

**○事務局：**なかなかいろいろバラエティーに富んでいて、前向きに整理したいと思っています。大きくは来外者向け、あえて在文京区者向けとさせていただきました。一番はじめにお話がありましたように、区民向けというかたちで内容を整理できないかなということを考えております。

分かりやすいところでいうと、来ていただくために、これはほかの都市でもよくやっていることなのですけど、旅行会社の聞き込みとか、マスコミ等を使いましょうというお話もありましたように、あとテレビドラマを利用する、あと観光的なことはやっていきましょうという話があるなと思います。

もう１つ、今私が思っていますが、これは先生のアイディアなのですけど、ちょい悪おやじみたいな話ですけど、区民が区内でいかに区を楽しむと、文京を楽しむというような話もあるのかなというところで、そのようなソフト的なところを今整理させていただいておりますけど、それ以外にやはり区民が散歩をしていても困るのは、これはどこでもそうですけど皆さん言うのはトイレですということです。それは高齢者に限らず、特に女性はとにかくトイレがどこにあって、きれいなトイレはどこにある、きれいなベンチはどこにあるという話がありますので、そこのところをどう今回の観光であり、交流という中で整理していくのかということが１つのポイントかなというのは、このへんに整理をさせていただいております。

最近はやりのものがでてきて、これはうれしいなと思っていまして、歴女サミットとか、まさに文京ならではで、この歴史的なところをひもといていけばたくさん出てくるだろうというようなところを、それでイベントをやって文京ならではというところ、そういうようなものが出てくるといいかなと。また、いろんな文芸、文豪がいらっしゃるので、そういうことをやっていったらいいのかなというソフトをやっていこうという話。

あとこの地域資源というところでいうと、この難しい言葉は私分からなかった、フェノロジーカレンダー、詳しくはまた先生にお話しいただけると思いますけど、そのようなところも派生して、文京をもっと知っていただくように機能含めて整理していきたいなというところです。

また何かほかにありましたら、もう少しお時間いただいて整理したいと思うのですけど、ディスカッションを続けていただいて、整理をさせていただきます。

**○野口座長：**皆さんお気付きになったのは、やっぱり売り出し方というのですか、テレビを使ったり、ドラマを使ったり、場合によって映画っていうのもあるかもしれませんし、何かキャラクターグッズ、今はゆるキャラなんていうのがはやっていますけど、「せんとくん」なんてずいぶん議論がありましたけど、そういうのとか、あれもやるだけ話題になるので、そういう意味では本当にPRになるのかもしれません。

それからハードの整備ということでは、実は旅行会社がお客さんをある地域に送るか、送らないか決める最大の要因というのはトイレがあるかないかなんです。でもJTBさんなんかは、どのエリアに何個トイレあるか全部把握しています。それがあいまいだとパッケージツアー作れないので、地元の自分たちの関連会社に調べさせたりするぐらいですからトイレがあるかどうかとても大きい。あとは駐車場です、大型バスが止められるような駐車場があるかどうかとか、そういったことが旅行会社、実際に今の日本の観光というのは旅行会社が結構パワーを持っていますので、そういう意味ではそういったことも大事なポイントなのかもしれません。

それから拝見していると、トイレはハードであれですけども、あと少し歴史のことなんかも生かしたらいいのではないかということで、私は歴女サミットというのを書いたのですけど、今歴女っていって歴史に興味ある女性って非常に増えていまして、何か戦国武将に恋い焦がれている人がいるっていうぐらい何かはやっているのですね。その人を１カ所に集めて、実は東京都の観光の担当者の１年間で一番大事なイベントって何かっていうと、コミックマーケットっていうアニメとかの好きな人たちが集まるイベントが、これは観光の仕事の中で一番忙しくて一番気を使

うっていうのです。そのぐらいサブカルチャーといって、歴史なんかはサブカルチャーじゃなくて本当のカルチャーかもしれませんけど、そういったことで集まる人たちって本当パワーがあるので、もしかしたら何かよろいを身に着けた人たちがコスプレで集まるかもしれませんけども、そんなことやるのだったらまさに文京区がふさわしいなって私はパッと思ったのですけど、そういうのが多かったですね。

あとはここに来てからのインフォメーションをどうやって与えるかって大事ですね。先ほど地図はあるけど現地行ったら何もなかったっていうのがあって、そういったことも考えたいというお話です。私が書いたちょい悪おやじというのはどういうイメージかというと、実は今浅草の浅草寺の裏側に立ち飲み屋がズラッと並んでいるエリアがあるのですけども、あそこは今若い人がすごく多いのです。なぜかというと、今いわゆるホッピーとか、もつ焼きっていうのがはやっていて、だけどそこで若者が実際どの店に入ったらいいのか分かんないので、そういうのを地元のおやじさんが指南したらいいのではないかと、遊び方を、そんなことも思い付いて、つまりここに来てからの遊び方を誰かね、先ほどガイドを育成するっていう、ガイドって何かどうしても難しい歴史のこと講釈しそうなのですけど、そうじゃなくて、この焼き鳥はうまいのだよっていうところもあったら面白いのではないか、遊び方っていうのですか、そういうのも魅力的だなと思うんですけど。

私が言ったのばかりで申し訳ないですけど、もう１つフォトコンテストやったらいいのではないかと思ったりする。

**○白井委員**：それはやっています。

**○野口座長**：私が言っているフォトコンテストというのはどういう意味かというと、実は先ほど皆さん再三、文京区ったら何が、これを見たら必ず文京区っていう風景って何だろうって、皆さんたぶんすごくいろんなご意見あると思うのです。高層ビルなのか、それとも有名な庭園なのか、そういうザ・文京区というような、これはアイコンというのですけど、誰もがそれを見たらパッと何区って分かるような、そういうものは何なのかというものを写真のコンテストをやって、区内に住んでいる人と区外に住んでいる人で比較してコンペすると面白いと思うのです。外から見たらどう見えるのか、住民の人から見るとこれが文京区ですと、もしそれに差があるとしたら、それを修正していかないと発信力が弱まっちゃうとか、そういう意味でのフォトコンテストをやったらいいのではないか。そのフォトコンテストで入賞した作品なんかは、文京区さんがいろんなところに無料で貸し出すといいと思うのです。いろんなパンフレットに使ってください。

これはニューヨークなんかやっています。ニューヨークは一般の客向け、業者向けというので２種類の写真コーナーがあって、いわゆるニューヨークを宣伝してくれるのだったら大いに使ってくださいという写真のストックがネット上にあるのですけども、そういうことをしていかないと文京区さんのイメージというのが、例えば沖縄だったらシーサーを見れば沖縄だっていうのがありますよね、首里城見たら。そういうアイコンっていう、これアイコンって呼ぶのですけど、何かそういう強烈なイメージ像というのですか、そういうのがもしみんなで共有できたら。それはキャラクターグッズも同じことなのですけど。

**○上田委員**：キャラクターグッズは、バンダイという会社からこの間ちょっとアクセスがありまして、今台東区のほうで台東君というキャラクターを作っているのですよ。台という字に台の頭が、ムというところがカブトになったみたいな、そんなようなやつをこんなピンバッジのキャラクターです。それをいわゆるガチャガチャに入れて、200 円でガチャガチャと出すわけ、それがお土産になるわけ、台東区の。上野公園とか、浅草行ったときの。それを文京でもやりませんかというので、それでちょっとアクセスありまして検討中なのです。

観光といわれているコーナーのところに、今子どもたちがよくやるガチャガチャを置いて、その中にいろんなグッズを入れて持ち帰ってもらう。500 円でもいいですよね、いいものでしたらね。だけど 200 円ぐらいのものが面白いかなと思って、逆にどうでもいいようなものでも、持っ

て帰っちゃったらどこにしまっちゃうか分かんないようなものですけど、そんなものもちょっと考えているのです。
　それで２～３の地域でちょっと関心を持っていまして、白山のほうだとか、千駄木のほうだとか、ひょっとしたら年内に少し動くかもしれません。そんなのを全部文京区中に動かしてみたら面白いかなというのが、今、文京区商店街連合会の１つの考えです。

**○市川委員：**ことし中にできそうですか。

**○上田委員：**そんなに費用かからないし、置いてあるだけですから、勝手にお金入れてガチャガチャと回していくわけですから、管理もバンダイのほうでやるっていうからお店の負担にもならないし、動けることは動けるなってことで。

**○野口座長：**かえってああいうのって区民の人が買うのですよね、外から来る人というよりも区民の人が買ったりするのですけど。

**○上田委員：**そうかもしれないね。

**○白井委員：**それは観光協会も一緒で、持ってきたデザインがあまりよくないので、今ちょっとそれを。

**○上田委員：**あれはよくないね。

**○白井委員：**今訂正をしてもらっています。

**○野口座長：**それにどれだけ区民の皆さんがそれに乗って、じゃあ、次にこういう商品作ろう、こういう商品作ろうってなるかどうか、それは今のところなかなかならないような。

**○白井委員：**それがそれなのです、さっきのフォトコンテストも何にしても、やっぱりそれに参加する人だけが知っていて、私なんかもかかわったから文京区でこんなことやっているのねっていうのが分かっているのですけど、一般にいたときには何も知らなかったです。文京区にいて文京のことが何も知らなかったというのが現状で、だから知らない人たちにどう知らせたらいいのかというのが、すごく今一番難しい。それが割合と文京区の方たちというのは非常にインテリの方が多いので冷めているのです。それなのでお祭りをやってもあまり盛り上がらないし、それが一番浸透していかないところじゃないかなと思います。だからどういうふうにしたらいい。でも、歩いている人はすごく増えましたね。
　それと私は今文京区音羽なのですけど、鳩山会館が今すごいのですよ、毎日のように観光バスが来て、はとバスまで来ていますし、そのおかげで音羽通りに人が歩くようになったのです。それで観光バスで来る方もいますけれども、地図を見ながら歩いて来る人たちもいます。そうすると地下鉄から降りて鳩山会館までの通り道のレストランですとか、お店屋さんが非常ににぎわうようになりました。それが思わぬ効果だなと思うのです。あれもマスコミの力というか、何かそういう効果ってすごいなと思う。

**○野口座長：**ほかの観光地なんかでもそうなのですけども、なかなか地元の人が気付かなかったり、参加しなかったりすると、一番怖いっていっちゃいけないのですけど、何の利害もない人がお金もうけのためにスポッとそこに入り込んできて、気が付いたら地元の論理と関係ない商売が始まっちゃうというのは、だいたい観光地が駄目になっていくパターンなのです。例えば温泉地なのに、突然テディベア博物館ができたりとか、ガラスの博物館ができたりとか、これはだいたい外の資本が、地元の人は何も関心持たないで、空いている商店があったら、それをほったらか

しにしていたら、いつの間にかそれが買われちゃって、何の脈絡もないようなお土産もの屋さんができたりする。そうならないうちに、地元の人たちがいろんな意識を持ってくれたらいいですよね。

どうでしょうか、少し見出しが付いたでしょうか。

**○事務局：**今のお話もありましたけど、やはり広い意味での観光マーケティング、宣伝 PR みたいなものは重要である。知っていただいてそのときにそれに見合った観光グッズ等いろんなものをいただきました、そのようなものを、これはいいだろうなというものを買っていただけるような仕組みをつくっていって、それに見合ったものをやりましょう。このへんに対来外者向けと区民向け両方にかかってくるのかなというところで、このようなイベントごとを、それでやっぱり人を集めていって、そのときに使えるものは、今鳩山会館ありましたけど、その他さまざまな神社・仏閣、そちらの話もありました。そのようなものを有効に活用していただいて、歩いていただいて、楽しんでいただいて、またその１つをこの難しいフェノロジーカレンダーみたいなもの、またこちらにかかってくると思いますけど、見ていただきながら、楽しんでいただきながら、この多彩な楽しみ方を文京を使いながらやっていくということができます。

その中でもう１つ、今説明させていただかなかったのですけど、区民向けという話でいうと、区民がこのまちを楽しむところでいうと、やっぱり最低限必要なトイレと、そのためのインフラみたいな、バスも頑張っていらっしゃいますね。そのようなものをもうちょっと使いやすくする。あとインフォメーションも、対来外者向けも大事ですけど区民向けも大事なんじゃなかろうか。あと働きにいらっしゃっている方もいらっしゃいます、その人たち向けにランチマップ。あとそういう人たちがこのまちで楽しむように、おやじの遊び方みたいな話がありましたが、まちを広い意味でどう楽しむかということです。意外に情報がありすぎると難しいところでございまして、どう楽しむかというのを１つ提案してみるということもできるのではないかという話です。

もう１つは、特に野口先生も非常にこだわっていると私は思っているのですけど、ある意味いい意味での前向きな教育です。子どものうちからこのまちを愛し、このまちの観光受け入れ態勢というものを考えていきましょうということだし、それがボランティアの育成とかにつながっていくと思いますということです。どう巻き込んでいくのかということでいうと、面白いこと書いてありましたね、奥田委員ですか、職員もそういう意味では巻き込むということがかかわってくるのかなということです。

そのためには非常に広い話もいただいています。イメージの違いというものはもちろんあるわけなので、そういう意味で共通のイメージみたいなものをつくっていったらいいのではなかろうか。今までいただいたのはそのようなところです。

**○野口座長：**かなり皆さんから自然に思い付いたのだけども、だいたいこういうことを抑えていかなきゃいけないということがだいたい出てきたので、次回の議論につながるのではないかなと思うのですが、もう１回フェノロジーカレンダーをご紹介したいのですけども、実は皆さんここに住んでいる方は、春になったらあそこで桜が咲くとか、何とかの花がきれいだって、これは生活しているとだんだん身に付いてきて分かっているのです。そういう知識をちゃんとカレンダーに落とし込んで、例えば４月の頭は何とか公園の何々がきれいだとか、鳥がこう来るとかいうのをちゃんと表にまとめるということなのです。つまり４月から、もしくは１月でもいいですけどスタートして、１年間の暦を出して、そこに例えば草花だったり、動物だったり、もしくは食べ物でもありますよね、季節を感じる食べ物、そういうものを表にするのです。

そうすると例えば電話がかかってきて、来月行くのだけどどこ見に行ったらいいというときに、パッと誰でも案内できるように、そうすると何とか公園の何とかというところの花がきれいですよとか、お昼ご飯は何とか弁当いかがですかっていうような、そういうのを季節ごとにご案内できるような資源を、カレンダーであり、マップでありというのを、皆さんたぶん住んでいる方は経験的に分かっているのです。それを外から来る人の目線で、まして外から来る人はその１日しか来られないので、その日に満喫するためには、今どこに行ったら一番楽しいのかということを

そのカレンダーに落とし込んでいくというものをお作りになったらいい。
　それはさっきの観光資源の発掘じゃなくて整理です。文京区の場合は山ほどあるというお話なので、それをちゃんと季節ごとに分けていこうということなのです。

**○白井委員：**それは観光協会で出しているカレンダーがあるのですけども、花の五大まつりというのが一応メインになっておりまして、その花とあとお寺さんですとか、そういうのがイラストマップになったカレンダーは毎年観光協会としては出しておりますけど、それが出ていることを知らない人がたぶんほとんどだと思いますし、あまり売れてないことも事実なのです。それをどうやって知らせるかという。売っているのです。700 円か、1,200 円か忘れた。いつも残るのですけど、文京区の中の企業さんに、ご自分のところの企業の名前を入れてというのでご注文を取るんですけれども、なかなか難しいことが現実です。

**○野口座長：**そういった情報をもう１回整理するということですね。案内のカタログなり、ガイドブックの決定盤みたいなものを出さないと、たぶんそういう情報がおっしゃったみたいに散逸していて、バラバラで、皆さんちゃんと把握されてないというのがあるみたいなので、そういうこともしかしたら事業の中に、文京区公認じゃないけども、公式ガイドブックじゃないけども、そういうのがあるべきだという、そういう議論もあっていいのかなと思うのですけど。
　お時間もありますので、今回出していただいた意見だけでも相当取り組むべきものがあると感じているのですけども、これをまた富士通総研さんのほうでまとめていただいて、いったんまとめていただいたものを皆さんに１回フィードバックしてみたい。それから先ほど宿題と自らおっしゃっていただいてありがとうございました。なかなか最近の学生は宿題といったら、えーっというのに、自ら宿題を志願するのははじめて見ましたけど、まさにお気付きの点を後からぜひお寄せいただいて、事務局さんのほうに。それも踏まえて、あとはほかの区だとか、市町村のほうでの取り組みというものをまた踏まえて、それで文京区さんに本当に合うものはぜひ実行すればいいし、これはちょっと合わないよというのがあればやめればいいし、そういったことを少し整理するのを２回目に向けてやりたいなと思っております。
　先ほどご意見シートというのに書いてくださいとありましたけど、それに収まりきれなければさらにまた別の方法でもいいと思いますし、ぜひ自由に発想していければいいなと思います。
　それではきょうはこのへんにしておいて今後の。

**○市川委員：**１つよろしいですか。こういうのは文京区から各世帯に配ることは、予算はあるのですか。

**○小野委員：**それは観光協会さんのほうで作っているものです。

**○市川委員：**文京区で買って配るというのは。

**○小野委員：**ちょっとないですね。

**○市川委員：**例えば野口先生がおっしゃったフェノロジーカレンダーができました。それを文京区の各世帯に一部ずつあげる。

**○奥田委員：**それは区報に載っければいいのではないでしょうか。

**○市川委員：**どのぐらいの量になるのかなと思ったんですけど。

**○小野委員：**それは見せ方です。

**○市川委員**：一覧になって、例えばワンバインドになっているというのは見やすいのかなと思う。

**○野口座長**：一般には、それは観光協会さんとか、役所のほうが持っていればいいし、基本的には、その全体図は。それは場合によっては鳥のカレンダーだけ、鳥だけ取り出せばいいし、花なら花だけ取り出せばいい、それは使い方によっていろいろ、加工の仕方はいろいろあると思います。ただ、原本というのは作らなきゃいけない。それはどこかで一元化しておけばいいのだと思います。

さっきの小学校で観光教育するというのと似ていますけど、全世帯に配るのは大変なので、少なくとも最初は小学校教育からやるというのはどうでしょうか。長い目で見て小学校、中学校に文京区の遊び方、遊びながら学び方というのを小学校から教えられれば、長い目で見ればコストも一番安くて充実するのかな、なんて私なんか思っているのですけど。

すいません、お時間もありますので、今後のスケジュールを事務局さんから確認をお願いしたいと思います。

**○事務局**：それでは先にお配りしております。今後の分科会スケジュールをごらんいただけますでしょうか。先ほどからお話をさせていただいているとおり、観光ビジョンで方向性をお示ししておりますので、こちらのスケジュールと A4 の紙一枚になっているものです。ほかの分科会は５月に１回、１カ月後ぐらいに会議を開くようになっているのですけれども、観光の場合は３回程度でまとめようと考えておりまして、第２回を６月 25 日、第３回を８月５日にさせていただいております。本日出していただいた意見の取りまとめを少ししようと思っていますので、その時間をいただければということで６月の 25 日に設定しています。少し時間が開いてしまいますので、一度いただいた意見、それから先ほど先生がおっしゃっていたほかの都市の事例であるとか、そういったものを文書でお示しをして、またそれについてご意見をいただくということを文書でやりとりをさせていただいて、それをまとめたものを第２回の分科会で一定程度まとめてお示しをしたいと考えております。以上です。

**○野口座長**：あとは事務局さんのほうから何かありませんか。

**○事務局**：先ほどからお話が出ています、ご意見シートにつきましては、いったん今回のご意見、また事業案が思い付いたということがございましたら、４月 27 日火曜日までにいただきたいと思います。

それからまとめたものを一度お示しして、またご意見をいただくという作業は進めまいりますので、お願いいたします。以上です。

**○野口座長**：イメージとしては、ちょっと１回目と２回目の間隔を開けて、その間にきょうのものとか、ほかのエリアの事例とか踏まえて宿題という部分を少し厚くさせていただいて、先ほどから繰り返し申し上げているみたいに、ほかの分科会はこれがなくてたぶんご苦労されていると思うのですけども、そういう意味ではこれとの整合性を含めて整理する時間をちょっと取って、６月に皆さんにお会いするときにはかなり具体的なお話ができたらいいなと思っておりますので、途中お気付きの点がありましたら事務局さんのほうにご一報いただければありがたいなと思います。

**○奥田委員**：宿題の提出期限が４月 27 日という意味ですか、簡単に言うと。

**○野口座長**：取りあえずきょうのことです。まずはきょうの議論の中でということで、宿題的なものはもうちょっと期限を延ばしても大丈夫ですね。

**○事務局**：先ほど奥田委員がおっしゃったような宿題的なものというのは、今回いただいた意見を少しまとめいただき、プラスほかの都市の事業とかをお示しをさせていただいて、そのお示し

をさせていただいたもののフィードバックをしたところでまた宿題というか、出していただければ。

**○野口座長：**つまりいったんまた事務局さんから他のエリアの事例をお送りします。それを見て自分が言いたかったこと載っていたらそれはそれでもういいわけで、それでさらにこれでは足りない、これをさらに言いたいというのがあれば、それに付け加えて、そこからまた締め切りを設けて事務局さんに戻していただくというキャッチボールでいこうというお話。

**○市川委員：**送っていただけるのですか、それはメールですか。

**○小野委員：**他のところの事例は紙ベースですか。メールのほうがいいですか。

**○市川委員：**どちらでもいいのですけど、媒体は何なのか。

**○事務局：**紙ベースで。

**○市川委員：**ということは郵便で来るということ。

**○事務局：**あとご意見アンケートをいただく、きょうあれ言えばよかったというのがありましたら、今お渡ししているものでいただきまして、また第二弾ありますので、またそのときに。

**○奥田委員：**別にポンと出さなくても、要するに宿題の期限までに出せばいいんでしょう。それからもう１つちょっと教えていただきたいのですけど、今は早急にやんなきゃいけないやつっていう別に条件を出したわけじゃなくて、単純にアイディア聞かせてよっていうかたちでバッと出たわけですよね。当面やんなきゃいけない３年の計画期間の中でどう散らばすのっていう作業が後日入ってくるわけですよね。それはこの分科会で入るのではなくて、事務的に入れてくれるっていう話になるんですか。

**○小野委員：**優先順位をここで話し合いをして。

**○奥田委員：**その場面が後日あるのですね。

**○野口座長：**なぜかって、それは先ほど皆さんから再三お話しいただいているみたいな感覚っていうのがあると思うので、これは急いだほうがいいとか、これは後々でもいいのではないというのがあると思うので、それはある程度ここでもんで、最終的にはもしかしたら正確な順位付みたいなものは事務局さんにお願いするかもしれませんけど、ざっくりとした、これは早くやったほうがいいよねっていうことは、先ほどの例えばキャラクターの話だとか、そういうのはもう早くやろうよというのは、早くやったほうがいいと思うので、そこらへんはまた皆さんとご相談できればいいと思います。

**○上田委員：**アイディアは感覚で動いたっていいわけですか。結構分かる話がいっぱいありまして、例えば樋口一葉の井戸の問題、ちょっともめましたよね。金沢のほうの武家屋敷でも並んでいる中にこんな大きな看板が付いていまして、当家では何も見るものはありません、入らないでくださいって書いてある、そういうプライバシーの問題とか、そういうのが分かっていることがあるのだけど、それを無視して、一応こういうことやったらいいなということを出したほうがいいわけですね。

**○野口座長：**あまり現状とかにとらわれて提案しちゃうと、それさえ逆に取り除けばうまくいくかもしれないということもあると思うので、そういう意味では本当に自由に発想していただいて、

テレビで見たりしたことで、これフランスでやっているらしいけど文京区でもやってみようとか、そのぐらいのものでもいいと思うのです。そういうことを、これからの１～２カ月をそんな感覚でお過ごしいただいて、テレビ見たときに、これいいのではないのっていうのでメモしていただくとか、そんなふうにお過ごしいただくと有意義かなと思います。よろしくお願いいたします。きょうは長時間ありがとうございました。

以上